

# こども通信

## 塚田こども医院

小児科・アレルギー科  
漢方内科

上越市栄町 2-2-25  
TEL 025-544-7777(代)  
025-544-7779(保育室)  
FAX 025-544-8456

ホームページ  
www.kodomo-  
iin.com



凄まじい大雪です。通勤や通学困難になる方も少なくないでしょう。

雪国だから仕方ない、とは思いますが、でも、青空が見たいな。

早く雪がおさまってくれることを願っています。

当院でもオンライン診療を始めました。今のところ、順調です。

当初は慢性疾患で、症状の落ち着いている方が対象でした。

ところがこの大雪！ 急ぎよ、対象者を拡げて、急性疾患も対象としました（といっても、検査が必要など、受診をしないといけない患者さんもおられますが）。

受診困難な患者さんや、受験前で

受診したくない（笑）患者さんにはとても優しいシステムになっていると思います。

また麻疹の流行などでも、オンライン診療は役に立っています。



通常の対面診療のほか、このオンライン診療も並行して行っています。皆さんの要望をできる範囲で叶えていきたいと思っています。

突然の衆議院解散！ この大雪の中、急がなければいけない理由がどこにあるのでしょうか。

「物価高対策」「消費税軽減」「与党枠組みの変更」など、どれをとつ

水曜午後の外来を行っています。

診療時間は午後2時～5時です。

## 感染症情報

インフルエンザは昨年秋からA型が流行していました。現在A型はほぼ収束したようですが、新たにB型が流行しています。ちょうど受験シーズンでもあります。かからないよう手洗い、マスクなどの日常的感染予防の対策をしてください。

新型コロナウイルス感染症は少数の発生です。

感染性胃腸炎の発生が少しずつ増えています。嘔吐と下痢があり、乳幼児では脱水や低血糖にならないように注意が必要です。

溶連菌感染症も多くなってきました。強い咽頭痛と発熱が特徴です。

麻疹（はしか）の発生が当地でもありました。40歳代の方の発生です。さらにその関係者で2名の発生も報告されています。今後さらに発生が続くことも考えられます。十分に注意してください。

麻疹の予防接種は1歳代と入学前1年間の2回が必要です。1歳になったら早めにワクチン接種を受けてください。さらに、0歳の後半からは母からの移行抗体もなくなっていて、「無防備」な状態になっています。保育園に行っているなど、多少とも感染のリスクがある時には、ワクチン接種を考慮してください（任意接種）。

また年長までの期間でも麻疹になる可能性はあります（修飾麻疹）。やはり感染リスクのある方は、もう一度ワクチン接種を受けておくことでより麻疹にかかりにくくなります。

麻疹の流行が広がらないように願っています。

ても、緊急に解散を要するものには思えません。こんなことをしていると、新年度の予算編成が遅れそうだという話です。

それよりも通常国会を直ちに開き、国会での論戦を通して物価高対策などをしていく方がずっと有意義です。

どうも、国会を開くと「金と政治」「統一教会」など、政権を追及する声が高まるのを恐れていたのではな

いか。特に年末に韓国で公表された旧統一教会の関係文書に、高市総裁の名前が出ているようです。

高い支持のあるうちに選挙をしてしまおうということなのでしょう。

大義のない解散・そう思わざるをえません。何とも歯がゆい感じがします。

でも、そうは言っても選挙があります。ぜひ投票所に行き、1票を投じたいと思います。

## 感染症

## 麻疹が発生！

当地の小児科に衝撃が走りました。麻疹（はしか）の発生があったのです。

初発の患者さんは40代の方です。どこでもらったのでしょうか。ワクチン接種歴はないそうです。

年末に出かけていてもらったよう。その後、発症してからあちこちに行っています。

最初の医療機関では分からず、病院に行つて麻疹と気づかれました。入院になりましたが、今は退院して普通の生活を送っているようです。合併症などがなくて良かったです。問題はそこからの二次感染です。大人や子どもの発生も確認されました。

いずれもワクチン接種を1回はしているので、軽く済んでいるようです。修飾麻疹と思われます。

修飾麻疹では、典型的な麻疹の症状が出ることもなく、ウイルス量も少なく、その結果、他の人に移す感染力も少ないことが多いです。

その後の三次感染が起きないことを期待したいと思います。

## ●麻疹とは

麻疹は、麻疹ウイルスによる初感染です。急性熱性発疹性疾患の一つです。

10～12日間の潜伏期のあと、38度以上の発熱、咳、鼻水、目やに、咽頭痛などの感冒症状がでます（**カタル期**）。通常の感冒よりも滲出液が多く、何となく嫌な感じがします（主観ですが）。

「カタル」とは粘膜の表面で起きている滲出液が多い状態を言います。臨床医の勘になるのですが、通常の風邪とは違う感じがします。

カタル期の最後に、口腔内の頬粘膜にコプリック斑という、白い発疹が現れます。これを見つければ、麻疹を大いに疑うことになります。

この時に一旦解熱傾向にあります。その後40度ほどの高熱が出ます。それとともに、全身に発疹が出現します（**発疹期**）。

発疹は4～5日続き、その後ようやく解熱してきます。発疹は後を残すのも特徴です。

その後次第に咳なども回復し、元の状態に戻りますが、数日～1週間ほどかかるでしょう。

## ●合併症

麻疹は免疫能を下げるので、細菌感染を起こしやすくなります。中耳炎も15%で起きると言われています。

肺炎も起きやすく、細菌感染のもの他にウイルス性のものも起きます。場合によってはこれが死亡の原因になることもあります。

脳炎の合併も起こります。後遺障害を起こしたり、死に至ることもあります。

さらに、罹患後数年してから起きる亜急性硬化性全脳炎（SSPE）があります。感染後には普通に生活し、知能なども悪くはないのですが、小学生くらいになると意識状態が悪くなり、死亡するものです。悲惨な状態です。

## ●治療

麻疹になると、特別な治療はありません。一般的な対症療法です。でも、発疹期は症状が強く、入院治療が必要になることが多いです。

肺炎や中耳炎などの合併症があれば、それに応じて治療します。

脳炎には特異的な治療はなく、特にSSPEでは現在の医療でも無力と言っているのではないかと思います。

## ●予防法

予防接種を受けることが唯一の予防法です。1回の接種では95～98%の効果がと言われています。1回の接種だけでは不十分なので、もう一度接種を受けます。

日本では1歳代で1回目、保育園の年長で2回目の接種を受けるようになっていきます。

生後半年ほどまでは母親からの移行免疫があるのですが、生後半年以降は免疫がほぼなくなります。

1歳になったら早めに予防接種を受けるようにお願いしています。さらに生後半年から免疫がないため、その前にも予防接種を受けることも考慮してください（任意接種）。